

滋賀県草津市

【2期計画：平成31年4月～平成36年3月】

- ・江戸～：古くからの交通の要衝にあり、東海道・中山道の分岐・合流する宿場町として発展。琵琶湖岸には、複数の港が存在し、湖上交通の拠点としての機能も有していた。
- ・明治～：東海道線と草津線の分岐駅として、草津駅が開業。その後、国道や名神高速道路、新名神高速道路などの道路交通網が整備され、交通の要衝としての機能を継承し発展。
- ・人口132,917人(平成30年3月住民基本台帳)、面積67.82km²

【前期計画(平成25年12月～平成31年3月)の概要】

- 草津駅前の緑化広場を兼ね備えた商業施設niwa+(ニワタス)や草津川跡地公園de愛ひろばの整備が完了したことなどにより、歩行者通行量は大きく増加。
- テナントミックス事業や魅力店舗誘致等によりエリア全体の空き店舗率は減少しているものの、郊外型店舗の進出等により駅西・本陣では増加。
- 施設の老朽化により福祉・文化・交流施設の利用者数が減少傾向、駐車場・マンションへの土地利用転換により商業等の事業所数や販売額が減少するなど、中心市街地での取組効果が限定的。
- 平成28年度から市の総合政策として健幸都市づくりに取り組んでおり、その一環として、中心市街地においては、草津川跡地公園など拠点を活用したイベントを実施。

【中心市街地の課題等】

- 歴史と景観を活かした回遊できる環境の整備
観光やお出かけの際の一定時間滞在・回遊してゆっくり楽しみたいというニーズが取り込めていないため、歴史と景観を活かした回遊できるまちづくりが必要である。
- 健幸づくりを中心とした市民交流の拡大
公共施設の老朽化等により利用者数は低迷し、活性化を阻む要因となっている。集客の核となる健幸関連施設整備とそれを活用した交流づくりが必要である。
- 魅力ある店舗の面的な出店の促進
業務転換や店舗の連続性の低下により、集客力が失われている。商業機能の求心力向上のため、集客を高める魅力ある店舗の出店促進が必要である。

【前期計画目標】

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値 <small>※()は目標値の達成見込</small>
歩いて楽しい回遊性の高いまち	歩行者通行量(平日)	11,067人/日(H24)	11,709人/日(H30)	13,937人/日(H29:達成見込)
個性的で魅力のある店舗が集積するまち	空き店舗率	10.4%(H24)	9.5%(H30)	8.8%(H29:達成見込)
幅広い世代が交流するまち	福祉・文化・交流施設の利用者数(平日・休日)	448,760人(H23)	538,512人(H29)	508,323人(H29:未達成)

【新計画目標】

目標	目標指標	基準値	目標値
歴史と景観を活かした“ひとが行き交うまち”(回遊性の向上)	歩行者通行量*1(休日)	9,717人/日(H29)	11,282人/日(H35)
	【参考指標】にぎわい創出イベント参加者数	14,300人/年(H29)	15,730人/年(H35)
「健幸づくり」を核として“ひとが集い交流するまち”(集客力の向上)	健幸・観光・交流施設の利用者数*2	371,077人/年(H29)	592,427人/年(H35)
魅力ある店舗がつながる“にぎわいが広がるまち”(エリア経済の進展)	営業店舗数	692店舗(H29)	735店舗(H35)

*1 中心市街地エリア内8地点(前期計画の6地点、de愛ひろばの本陣側堤防、草津宿街道交流館前)
 *2 野村運動公園(体育館・グラウンド)、(仮称)草津市立プール、(仮称)市民総合交流センター、草津宿本陣、草津宿街道交流館、くさつ夢本陣
 ((仮称)市民総合交流センター完成までは市立まちづくりセンターと人権センター)

【目指す中心市街地の都市像】 **ひとが行き交い ひとが集い にぎわいと交流が広がる健幸なまち**

歴史と景観を活かした“ひとが行き交うまち”	「健幸づくり」を核として“ひとが集い交流するまち”	魅力ある店舗がつながる“にぎわいが広がるまち”
-----------------------	---------------------------	-------------------------

【主要事業】

- ・くさつ夢本陣前スペース活用事業
- ・東海道沿道無電柱化事業
- ・中心市街地公共空間賑わい創出事業 など

【主要事業】

- ・(仮称)草津市立プール等整備事業
- ・野村スポーツゾーン利活用促進事業
- ・(仮称)市民総合交流センター整備事業
- ・健幸づくり交流事業 など

【主要事業】

- ・北中西・栄町地区市街地再開発事業
- ・魅力店舗誘致事業
- ・(仮称)市民総合交流センタープロムナード利活用促進事業 など

草津市中心市街地活性化基本計画の事業概要

歴史と景観を活かした “ひとが行き交うまち”

①くさつ夢本陣前スペースの活用

夢本陣前のスペースで、市がまちづくり会社等の民間事業者と連携して、日常的にマルシェやイベントを実施し、本陣エリアへの回遊を促す。

②東海道沿道無電柱化事業

本陣を含めた東海道沿いの歴史的な景観を後世に残しつつ、より美しい景観の形成を推進するため、無電柱化を実施する。

③中心市街地公共空間賑わい創出事業

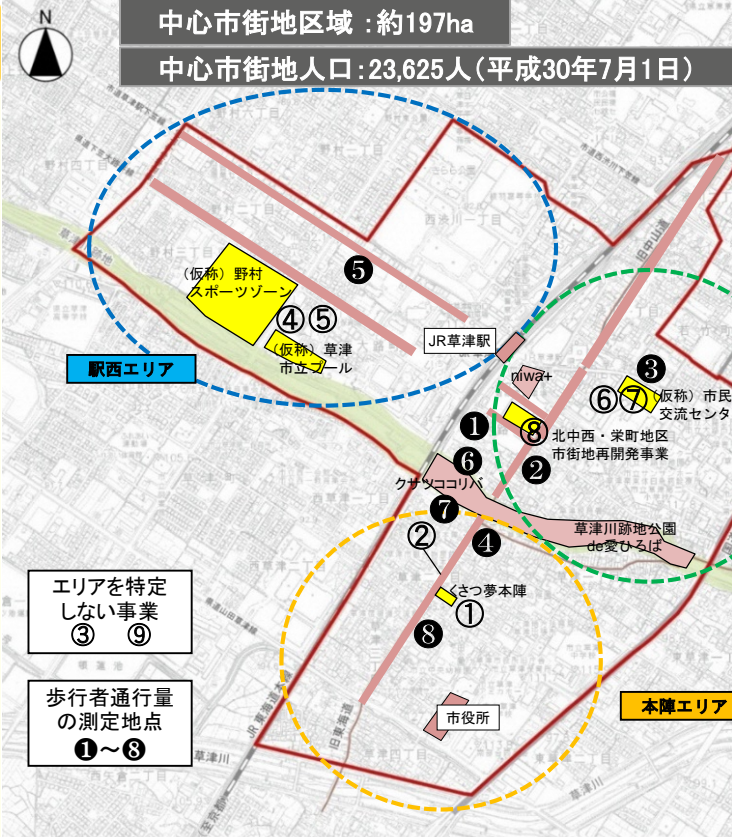
中心市街地の広場や公共空間において、市がまちづくり会社と連携して、イベント開催など定期的な活用を行い、各拠点の魅力を高めることで回遊性の向上を図る。



「健幸づくり」を核として “ひとが集い交流するまち”

④(仮称)草津市立プール等整備事業

「スポーツ環境の充実」「新たなにぎわいの創出」「スポーツ健幸づくりの推進」を実現し得る拠点施設として、誰もが幅広く利用できる機能を備えた(仮称)草津市立プールを整備することにより、周辺施設との連携を図りながら、交流人口の拡大につなげる。



⑤野村スポーツゾーン利活用促進事業

平成31年に供用開始予定の新アリーナや平成35年完成予定のプールの機能を十分に活かし、スポーツの試合や各種イベントの開催など、子どもから大人まで誰もが気軽に利用できるスポーツゾーンとして、中心市街地のにぎわいを創出する。



⑥(仮称)市民総合交流センター整備事業

中心市街地に残された大規模な低未利用地を活用し、草津駅周辺における老朽化が著しい公共公益施設を集積させ、子育て支援・市民交流など新たな機能を加えて、中心市街地に人、モノ、情報が交流する施設整備を進め、地域振興と市民交流の促進を図る。



魅力ある店舗がつながる “にぎわいが広がるまち”

⑧北中西・栄町地区市街地再開発事業

駅前における、密集市街地の合理的かつ健全な高度利用と都市機能の更新を図る市街地再開発事業を支援し、居住環境の整備と店舗の集積によるまちなかの魅力向上を図る。



⑨魅力店舗誘致事業

まちづくり会社等と連携し、拠点施設への集客を活かした周辺への店舗誘致やテナントミックス等の手法で魅力ある店舗を増やすことで、活気とにぎわいを創出する。

⑩(仮称)市民総合交流センタープロムナード利活用促進事業

(仮称)市民総合交流センター内の公共空間を活用したイベントと商店街等がタイアップした事業を展開し、利用者が相互に行き来する仕組みづくりを行うことで、にぎわいを広げる。

⑦健幸づくり交流事業

(仮称)市民総合交流センターにおいて、市内事業所の合同特定健診や健康推進員などによる料理教室の開催、健康機器の設置による日常的な健康測定や保健師による健康診断など年間を通じて健幸づくりと市民交流の促進を図る。